

高齢者の交通行動変容を促すための コミュニケーション

早稲田大学 渋田夢香・佐々木邦明
(株)大林組 西山愛梨
交通事故総合分析センター 小菅英恵

1. 背景と目的

高齢ドライバーが運転をやめることによる**事故リスクの減少**と**健康リスクの上昇**

運転をやめても健康な生活を送るための行動変容を探る

既存研究

- ・ 情報提供やプログラムによって免許返納意向がない人の態度変容や高齢者の運転自己評価の見直しを促すことは難しい (榎本ら、向井ら)
- ・ 健康状態が悪いことや公共交通に不慣れであることによって、免許返納後の公共交通利用や外出が困難になる (榎本ら、峰松ら、渋田ら)
- ・ 運転中止による健康リスク情報の提示によって、返納前からの公共交通や徒歩利用意図が高まる可能性がある (中尾ら)

本研究

健康で運転に問題がない返納前の状態から、安全運転や公共交通利用といった行動変容を促すコミュニケーション

2. 高齢者講習アンケートの分析

アンケートの目的

高齢者講習を受講する = 運転を継続する意思がある
身体機能の低下を認識し、安全運転への行動変容を促す講習
免許更新時の高齢者講習の効果を、次の点について検証する。

- ✓ 自身の運転能力を適切に評価することを促しているか
- ✓ 補償運転をしようという意識の向上につながっているか

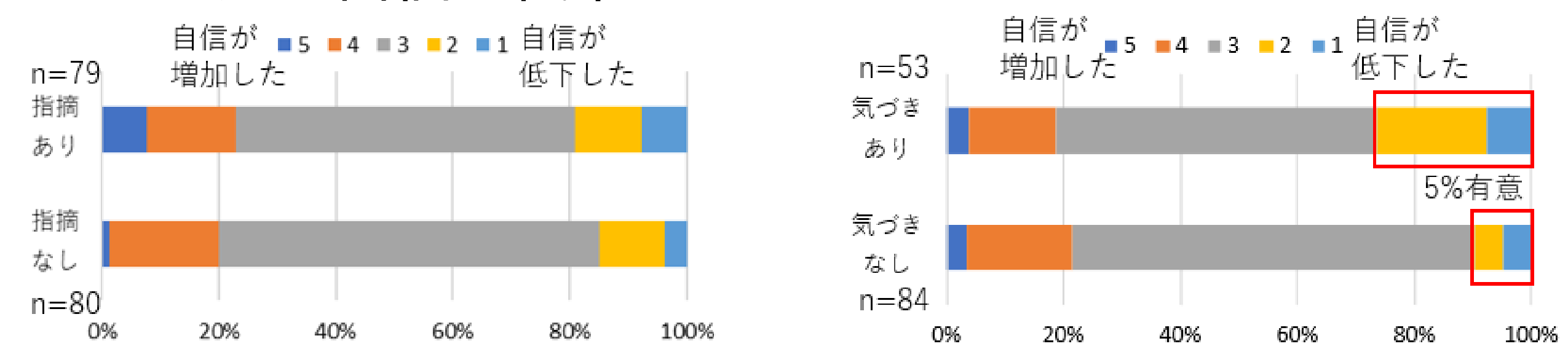
アンケートの概要

対象地 : つくば市学園中央自動車学校の高齢者講習受講者
回答数 : 191名
質問内容 : 運転状況、講習前と講習後における意識と変化
指摘 : 実車指導で指摘されたことを選択してください
気づき : 自分の運転に関して指摘関係なく感じたことはありますか

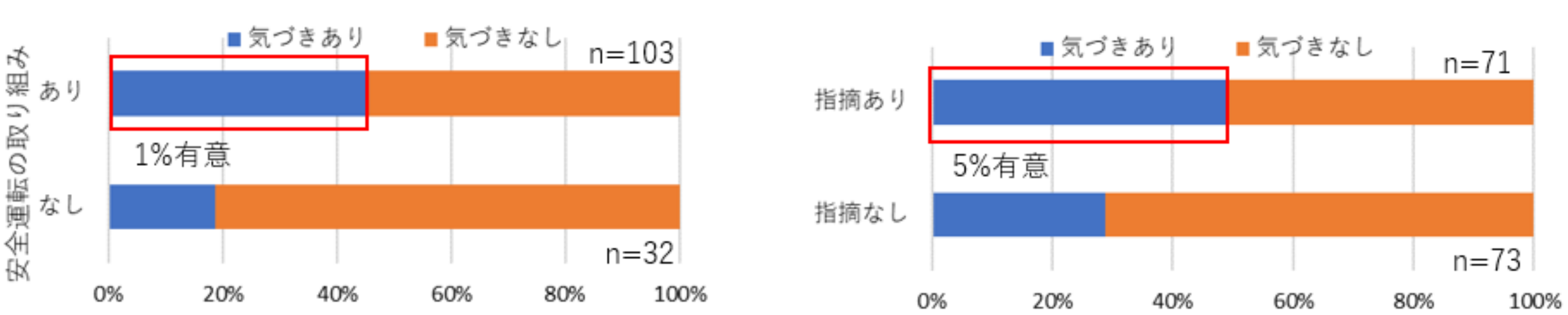
アンケートの分析

問題点 : 運転自信が高く、講習で自信が変化しない人が多い。
○実車指導は、運転能力の適切な自己評価を促しているか？

- ・ 指摘を受けることは、自信の低下にはつながらない
- ・ 気づきがある人は自信が低下する

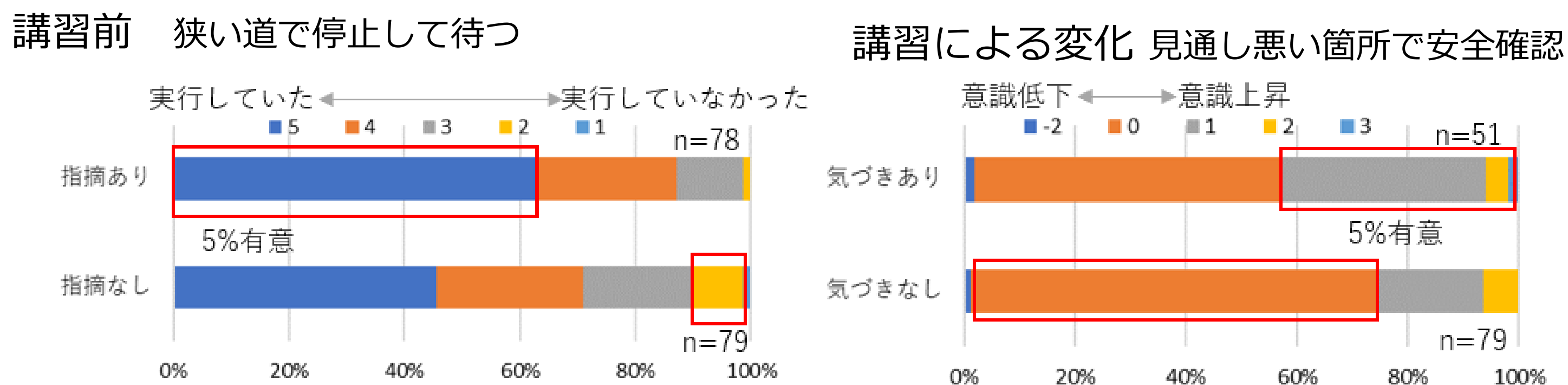


○気づきがある人は？…安全運転の取り組みあり、指摘受けた



○実車指導は、補償運転意識の向上につながっているか？

- ・ 指摘ありの人は講習前から実施している補償運転項目があり、講習前後で補償運転意識は変化しない
- ・ 気づきがあることで安全確認意識が上昇する、気づきがある人は講習前から夜間や悪天候運転を控えている



継続調査

講習から約2か月後、10名への調査
補償運転を実行した人の特徴として、講習直後または講習2か月後に**運転に関する気づきがあった**。

アンケート分析からわかったこと

- 実車指導で**指摘を受けることは**、運転自信の低下や補償運転意識の向上には**つながらない**。
- 運転に関する**気づき**を得ることで、**運転自信が低下し**、**安全確認意識が向上する**。
- 気づきを得る人は、日頃から**安全運転の取り組み**があり、**夜間や悪天候運転を控えている**。

3. コミュニケーションの内容

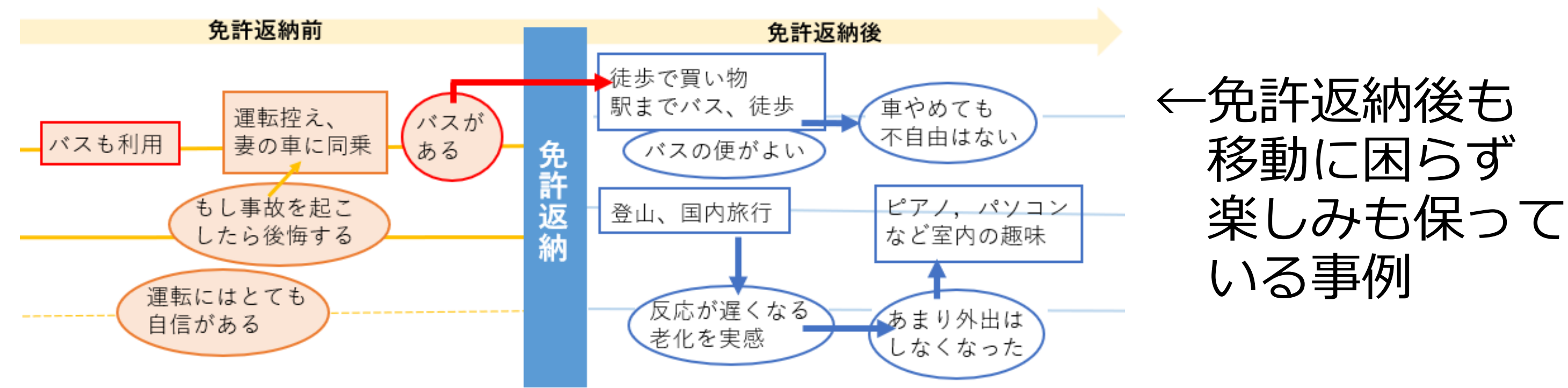
コミュニケーションの目的

今後生活や心身機能が変化することを見据えて、**運転や健康に問題がないうちから自動車に依存しないことの必要性を認識し、行動変容を実行することを促す。**



免許返納シナリオ

伝える内容 : **返納前から**自動車だけでなく公共交通を利用することで、返納後にも外出頻度や満足度を保つことができる。
方法 : **物語型の文章**で全員に同じ内容を配付、意識変化を調査



ライフプラン→行動変容目標→行動プラン

内容 : **ライフプラン**を考え、**運転しない生活に向けて今から行う行動変容の目標と行動プラン**を作成し記入していただく。

ライフプラン	現在 ○歳	2,3年後 ○歳
Q. 今後どのような生活を送りたいと思いますか？ 取り組みたいことや 楽しみたいことを 自由に記入してください	クラブの活動	
Q. そのために、どのように移動したいと思いますか？ 自分で車を運転 徒歩や公共交通を使う 送迎など人の助けを借りる	週に一回、駅まで買い物と食事	
Q. ライフプランをみて、今からどのような行動をしようと思いますか？ (交通手段を変える/目的地を変える/活動を変える) ○をつける Q. 具体的にどのような行動をしますか？目標を記入してみましょう。 ・ (目的) の用事は、(場所) で行う ・ (活動) に参加してみよう		



行動プラン作成のため、公共交通の時刻表や利用方法の情報提供、代わりにの買い物目的地や趣味活動などの提案を個別に行う。

研究の概要

対象地域 : 川崎市麻生区王禅寺周辺地域、つくば市
対象者 : 60歳以上の免許保有者 各地域20名程度を予定
調査方法 : コミュニケーションの前後でアンケートとヒアリングを実施し、行動変容プロセスモデルの心理要因や行動意図・実行意図に基づいて、個人の意識や行動の変化を調査する。

事前調査の状況

ほとんど運転していない層、運転していて公共交通利用もある層、運転していて公共交通利用がない層に分けられる。各層に促す行動変容を検討し、コミュニケーションを実施していく。

日頃から安全運転の心がけがある場合には、講習で気づきを得て運転自信の低下につながるが、安全運転への関心が低い場合には、自信の見直しや補償運転を促す高齢者講習でのコミュニケーションは効果を生みにくい。